

楽しいはずの「おうちごはん」で事故のおそれ ～台所用品による子どもの事故に注意！使い方を教えて、見守る～

外出自粛やテレワークなどにより在宅時間が長くなったことで料理する機会が増えています。また、家族そろって料理を行う「おうちごはん」が SNS 等で話題になりました。夏休みに入るとさらに子どもが料理する機会が増えると考えられることから、NITE（ナイト）は台所用品^{※1}による子どもの事故防止のために注意喚起します。

2010 年度から 2019 年度までの 10 年間に NITE に通知のあった製品事故情報^{※2}のうち、0 歳から 15 歳までの子どもが関連する台所用品の事故は合計 49 件^{※3}ありました。そのうち死亡事故は 4 件（4 人）、重傷事故は 8 件（12 人）発生しています。

製品別では「ガスこんろ」で 15 件と最も多く事故が発生しています。事象別に見るとやけどを負う事故が最も多くなっています。子どもの事故では、子どもの行動が関連して事故が発生するケースが多く、子どもだけの時や大人と一緒にいても目を離した隙に事故が発生しています。また、6 歳までは電気調理機器によるやけど、7 歳以降になるとガス調理機器による火災が目立ちます。

台所用品による子どもの事故を防ぐためには、製品事故や危険性について保護者が十分に認識することが重要です。一緒にいる際は子どもから目を離さない、手伝ってもらう際は正しい使い方や危険性について子どもと一緒に確認するなど、子どもの行動を見守り、事故を未然に防ぎましょう。

■事件事例

- ・目を離した隙に子どもが一人で「ハンドブレンダー」を操作したため、刃に触れていた指を負傷した。
- ・「電子レンジ」の扉を開いたままにしていたところ、目を離した隙に子どもが扉をつかんだため、電子レンジが落下し負傷した。
- ・子どもがガスこんろで調理中、接近しすぎていたため着衣に着火し、やけどを負った。



■事故を防ぐポイント

- 保護者が製品の正しい使い方、危険性を認識する。
- 一緒に料理する際は、子どもから目を離さないように注意する。
- 刃物や火を扱う際の危険性について、子どもと一緒に確認する。

また、新型コロナウイルス感染症予防のため、消毒用アルコールをガスこんろなどの火気の近くで使用したり、手指の消毒直後に火気に近づけないでください。アルコールは揮発性が高く、引火するおそれがあります。

台所周辺を消毒する際は、台所用洗剤を使って消毒することもできます。^{※4}

(※1) 本資料で対象とする製品は、2ページを参照。

(※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(※4) 具体的な消毒方法などにつきましては、以下のURLをご参照ください。

<https://www.nite.go.jp/information/koronataisaku20200522.html#n2>

対象製品^{※5}

ガス調理機器



ガスコンロ



カセットコンロ



ガスオーブン



ガストーチ

電気調理機器



電気ポット



ハンドブレンダー



ミキサー

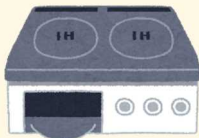


スロージューサー

ミキサー類



電子レンジ



I H調理器



オーブントースター



電気炊飯器

その他の台所用品



食器・容器



なべ



調理用具



ポット

(※5) 事故情報のうち、子どもが被害者または使用者だった事故の製品のみ対象。なお、包丁で手を切るなどの事故は、許容可能なリスクとして社会が受け入れている事故のため対象外。

1. 台所用品による子どもの事故の発生状況

1.1 製品別の被害状況

2010年度から2019年度までの台所用品による子どもの事故49件について、図1に「製品別の被害状況」を示します。死亡4件（4人）、重傷8件（12人）、軽傷21件（25人）発生しています。製品別では、ガスこんろで事故が最も多く発生しています。

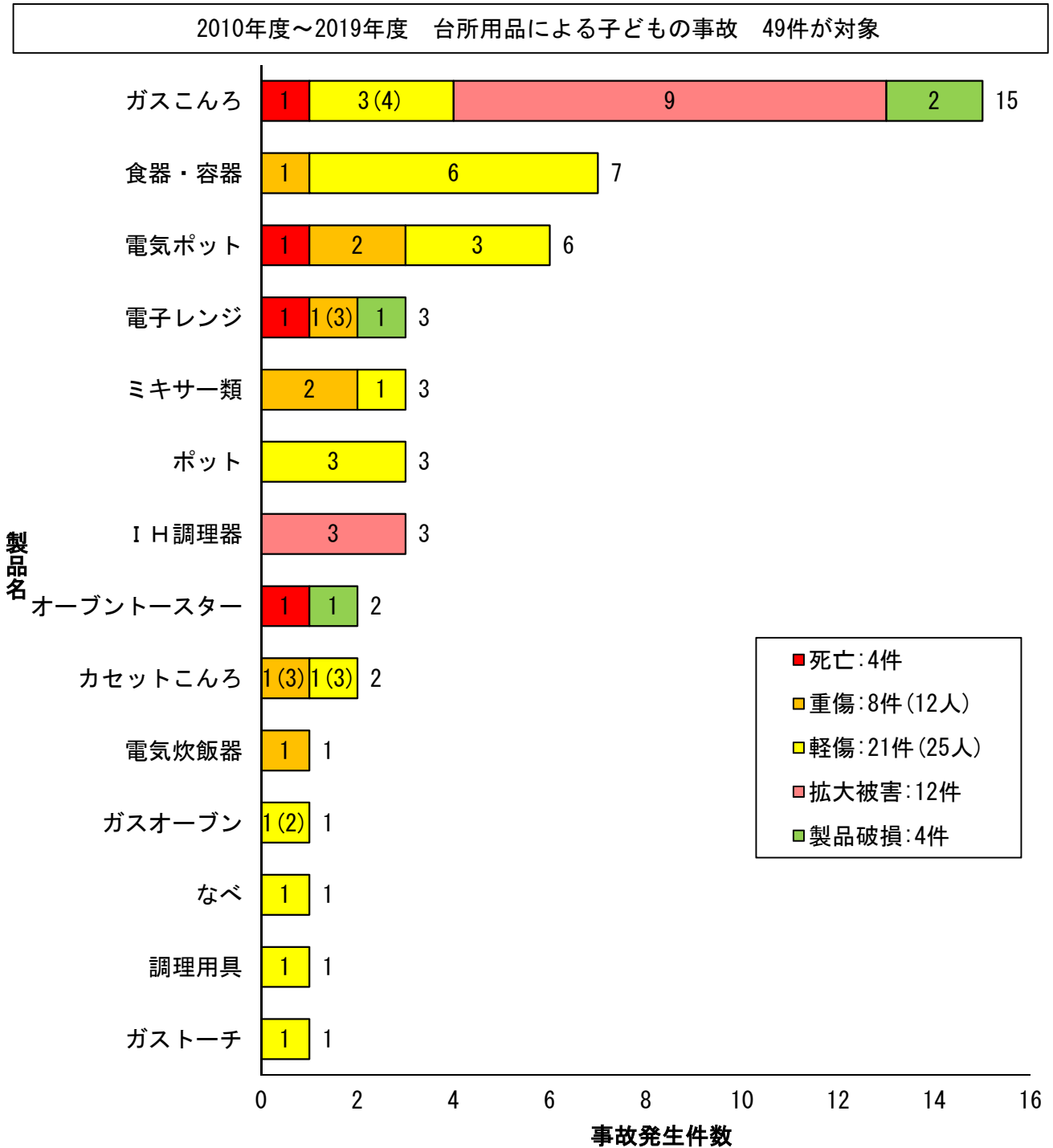


図1 製品別の被害状況^{※6}

(※6) () は被害者数。() のないものは事故件数と被害者人数が同数のもの。

1.2 年齢区分^{※7}別 事故発生状況

子どもは、成長に伴って行動が変わります。以下に、年齢区分別の傾向を示します。

2010年度から2019年度までの台所用品による子どもの事故49件のうち、年齢区分が判明した38件について、図2に「年齢区分別 製品分類別 事故発生状況」を示します。6歳までは電気調理機器の事故が多く、7歳以降になるとガス調理機器での事故が目立ちます。また、火災はガス調理機器で多く発生しています。

(※7) 年齢区分は、0～1歳未満（乳児期）、以降3歳ごとに区分した。

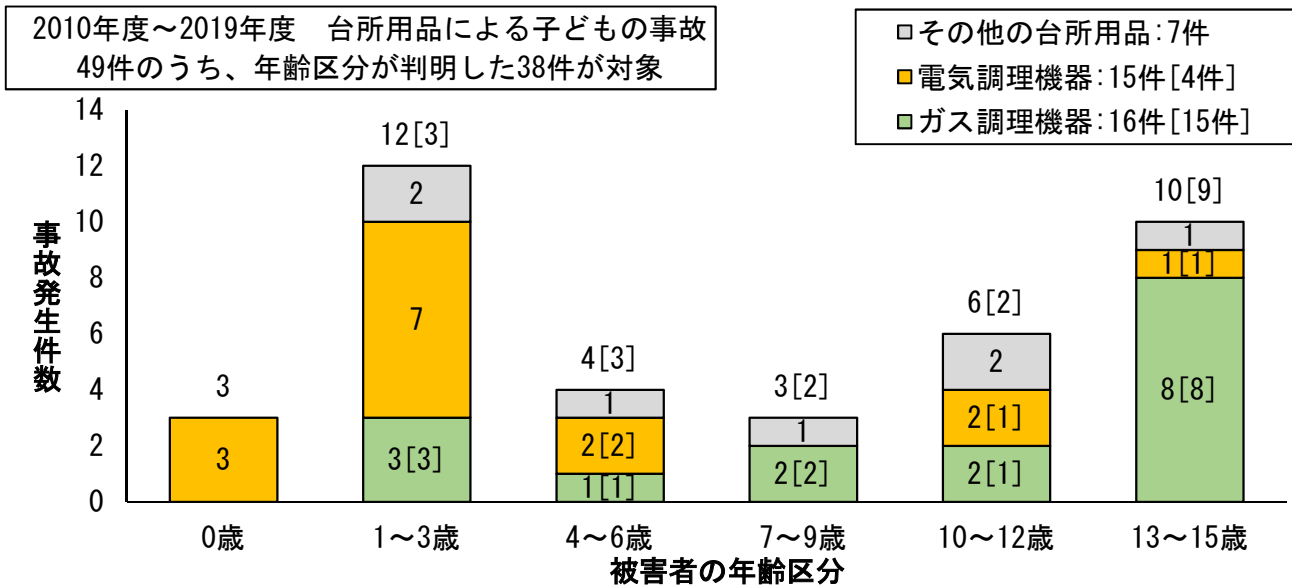


図2 年齢区分別 製品分類別 事故発生状況^{※8}

(※8) []は火災件数。

2010年度から2019年度までの台所用品による子どもの事故49件のうち、年齢区分が判明し人的被害のあった27件について、図3に「年齢区分別 被害事象別 事故発生状況」を示します。電気ポットなどでやけどを負う事故が最も多く発生しています。

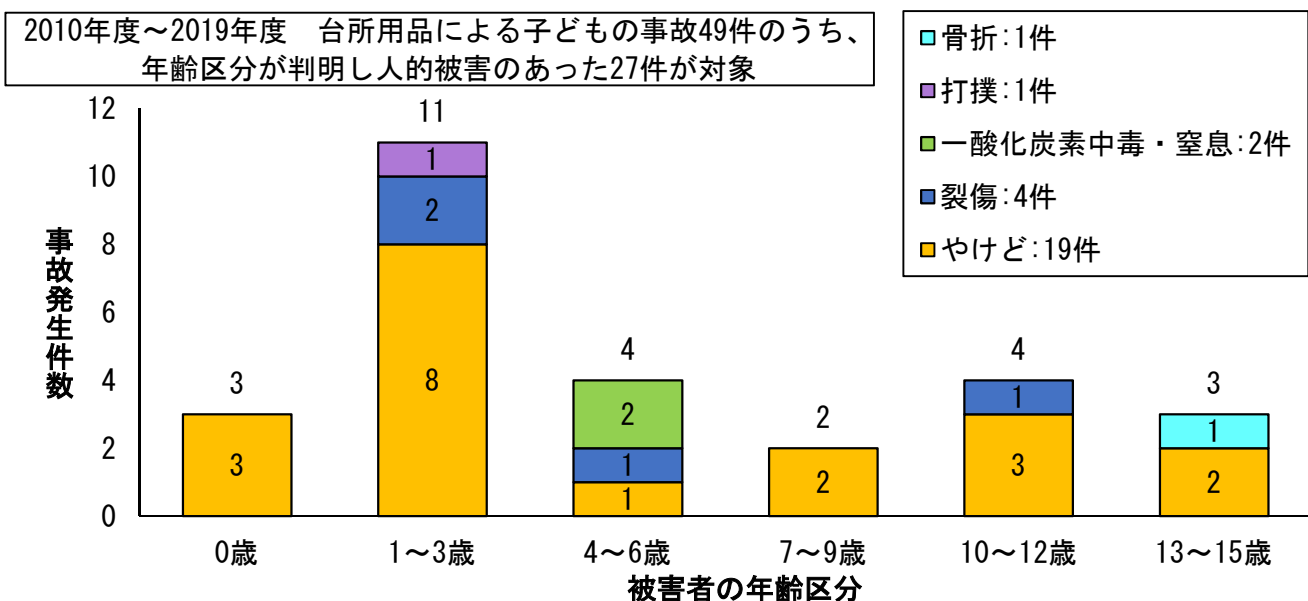
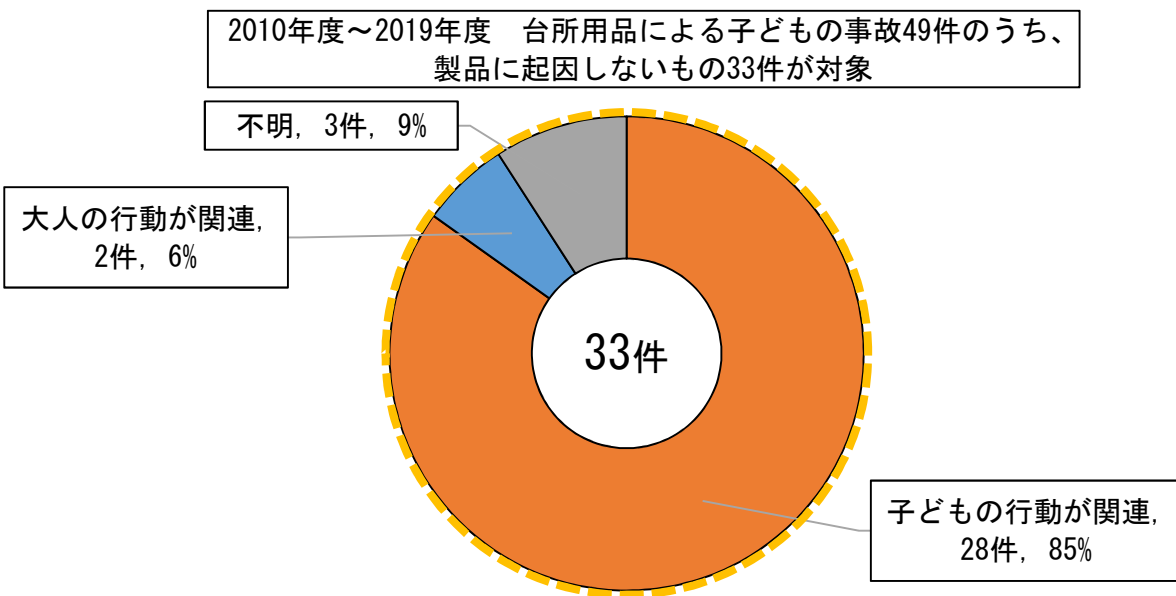
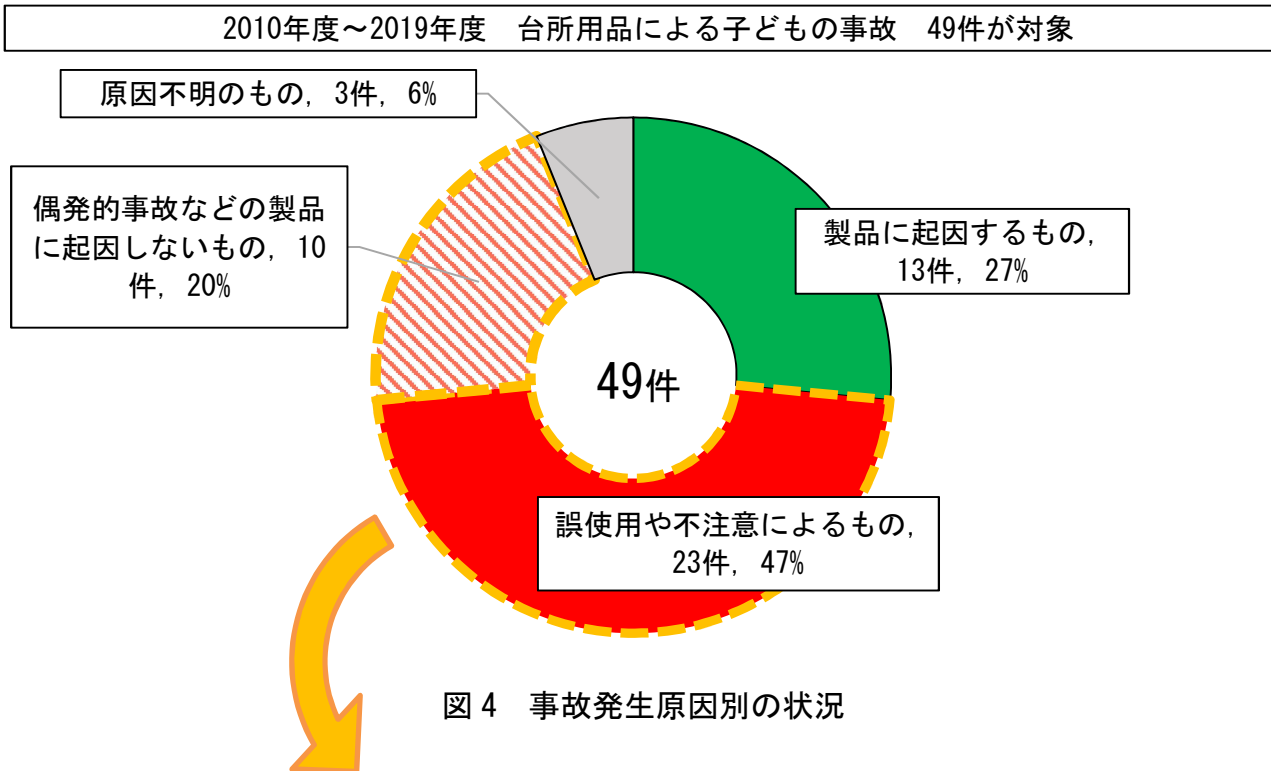


図3 年齢区分別 被害事象別 事故発生状況

1.3 事故発生原因別の状況

2010年度から2019年度までの台所用品による子どもの事故49件について、図4に「事故発生原因別の状況」を示します。誤使用や不注意によるもの、偶発的 accident などの製品に起因しないものは33件発生し、全体の67%を占めています。製品に起因するものは、食器・容器が割れてけがを負った事故など8件がリコール製品による事故です。

また、製品に起因しないもの33件について、図5に「行動要因別 事故発生状況」を示します。33件中28件（85%）が子どもの行動が関連し事故に至っています。



1.5 事故発生時の状況

2010年度から2019年度までの台所用品による子どもの事故49件について、図6に「事故発生時の状況」を示します。子どもが大人と一緒にいたときに起きた事故が23件（47%）、子どもだけの時に起きた事故が19件（39%）発生しています。大人と一緒にいても、目を離した際に事故が発生しているため、一緒に料理している際は子どもから目を離さないように注意してください。また、大人と一緒にいて発生した事故の中には、器具の清掃不良で火災になったものなど、普段から大人が注意していれば防げた事故があります。

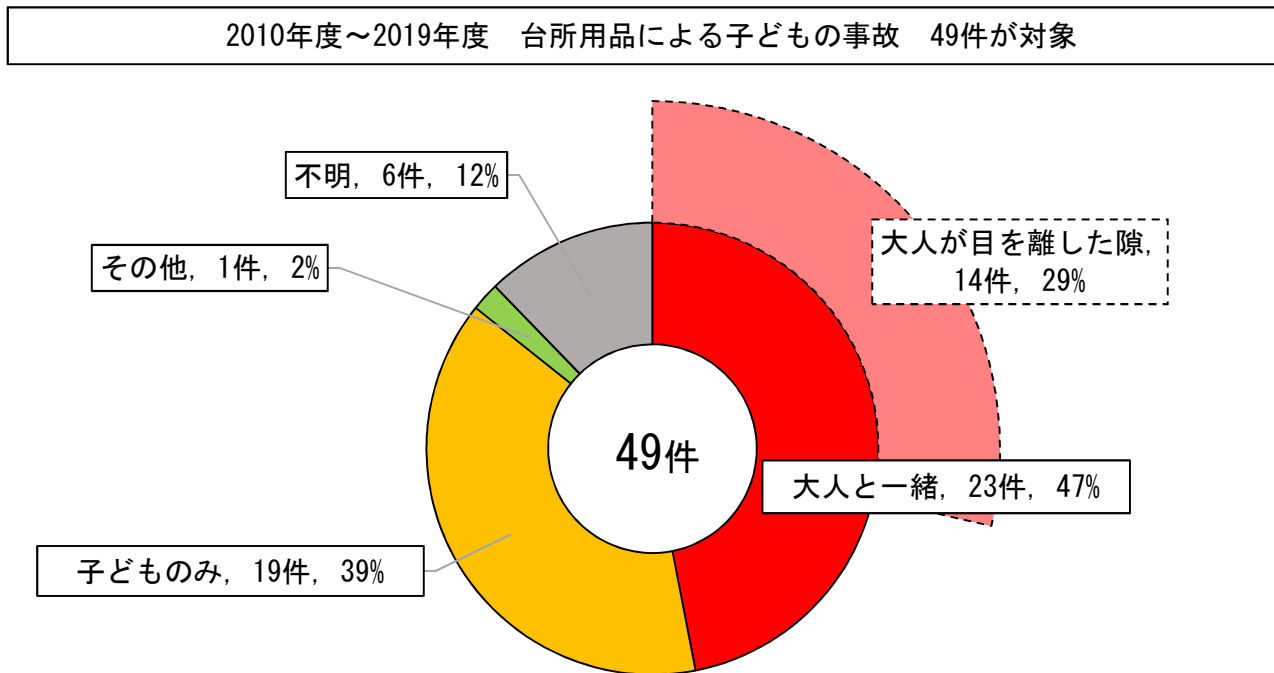


図6 事故発生時の状況

2. 事故事例

2.1 大人が目を離した際に発生した事故

2.1.1 ハンドブレンダーで裂傷

事故発生年月日 2015年8月（栃木県、10歳・男子、重傷）

【事故の内容】

子どもがハンドブレンダーを操作したところ、指を負傷した。

【事故の原因】

子どもが一人でハンドブレンダーを操作した際、回転したブレンダーシャフトの刃に触れていた左指を負傷したものと考えられる。

なお、取扱説明書には「子どもなど取り扱いに不慣れな方だけで使わせたり、乳幼児の手の届くところで使わない。」旨、警告表示されている。



2.1.2 電子レンジが落下し打撲

事故発生年月日 2010年7月（千葉県、2歳・性別不明、重傷）

【事故の内容】

電子レンジを調理で使用する際、扉を開いたままにしていたところ、子どもが扉をつかみ、電子レンジが落下し、負傷した。

【事故の原因】

扉（縦開き）が開いた状態であったこと、その高さが子どもの手の届く高さであったことから、目を離した際に子どもが扉をつかみ、電子レンジが落下したものと考えられる。



2.1.3 スロージューサー※9に手を入れ裂傷

事故発生年月日 2016年6月（福岡県、2歳・男子、重傷）

【事故の内容】

スロージューサーで調理中、子どもが右手を負傷した。

【事故の原因】

目を離した際に子どもが、電源が入ったままのジューサーの食材投入口に誤って右手を入れてしまったため、回転するスクリューに巻き込まれて負傷したものと考えられる。

なお、本体には、「子供が手を入れないよう十分に注意する。」「食材投入口には押し棒のみを使用する。」旨、表示され、取扱説明書には、「子供の手の届くところに、電源を入れたまま放置しない。」「食材投入口に材料を入れる際は、押し棒以外の指等を絶対に入れない。」旨、記載されている。



（※9）スロージューサーとは、従来のミキサーよりも低速で食材を搾れるジューサーのこと。スクリューがゆっくり回転して、食材を圧縮しながらすりつぶす製品。

子どもが台所用品を使用する際に気を付けるポイント**○保護者が製品の正しい使い方、危険性を認識する。**

保護者自身が製品の使い方やその危険性を認識することが重要です。ガスこんろの周囲に可燃物を置かない、電子レンジやオーブントースターの庫内を清掃するなど普段から事故を予防するような対策をしてください。

また、危険性を認識し、不用意に触れることでけがを負うおそれのある製品や場所から子どもを遠ざけたり、安全に配慮した製品を使ったりするなどして、子どもを事故に巻き込まないようにしましょう。製品を選ぶ際にロック機能付きのガスこんろ、電子レンジや電気炊飯器、ダブルアクションで動作するハンドブレンダー、投入口の小さいスロージャーなど、より安全に配慮された製品を選ぶのも有効です。

○一緒に料理する際は、子どもから目を離さないように注意する。

子どもに手伝ってもらい一緒に料理する際に、刃物や火を扱う製品を使用しているときは子どもから目を離さないように特に注意しましょう。その場を離れるなどする場合は、いったん使用をやめさせる、危険な使用方法をしないように言い聞かせましょう。

○刃物や火を扱う際の危険性について、子どもと一緒に確認する。

子どもは目につくもの、手が届くもの、興味を引くものをすぐに触ろうとします。台所には刃物、火を扱う製品や高温になる製品などけがや火災、やけどのおそれのある製品があります。特にそれらの製品については危険性について普段から一緒に確認しましょう。

2.2 子どもの誤使用や不注意による事故

2.2.1 ガスコンロで調理中にやけど

事故発生年月日 2013年8月（福井県、15歳・男子、軽傷）

【事故の内容】

ガスコンロで調理中、着衣に着火し、やけどを負った。

【事故の原因】

使用中のコンロに接近しすぎていたため、着衣に着火したものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「コンロ使用中はコンロの奥へ手を伸ばしたり、身体の一部や衣服がバーナーに触れないように注意する」旨、記載されている。



2.2.2 ガスコンロで火災

事故発生年月日 2013年8月（奈良県、15歳・女子、拡大被害）

【事故の内容】

温度センサーの付いていないガスコンロで天ぷらを調理中に出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

ガスコンロに天ぷら鍋をかけたまま放置したため、鍋の油が過熱し、火災に至ったものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「火をつけたまま放置しない」旨、記載されている。



2.2.3 電子レンジで火災

事故発生年月日 2018年5月（京都府、中学生・女子、製品破損）

【事故の内容】

電子レンジで調理中、庫内を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

クッキー生地をオーブン機能を使用せずに誤ってターンテーブルを置かずレンジ加熱したため、金属製の回転受台に直接載せられたクッキー生地が過熱して出火に至ったものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「クッキーを焼く際は、ターンテーブルを使用してオーブン機能で調理する。」旨、記載されている。



子どもが料理する際に気を付けるポイント

○子どもだけで料理する場合は、製品を使用する際の注意点などは事前にきちんと教えておく。

年齢が上がるにつれ、大人がいない留守中に子どもだけで料理する機会も増えてきます。子どもは製品に対する危険性を十分に認識していない場合があるため、普段から製品を使用する際の注意点などについてきちんと教えておきましょう。

台所用品による子どもの事故を防ぐポイントをまとめた「**親子クッキング 安全のためのチェックポイント**」をNITEのホームページに掲載しております。料理する前に確認してみてください。 (URL : <https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2020fy/prs200721.html>)

その他子どもの事故に関する事例をリーフレットとしてNITEのホームページで配布しております。 (URL : <https://www.nite.go.jp/data/000107516.pdf>)

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 小田 泰由
担当者 柿原、佐藤、小寺

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

参考データ

2010年度から2019年度までの台所用品による子どもの事故49件について、表1に「被害事象ごとの製品別 年齢別 事故発生件数」を示します。

表1 被害事象ごとの製品別 年齢別 事故発生件数

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	14歳	15歳	不明	総計
やけど	3	4	3	1	1				1	1		1	2		2	1	20
電気ポット	3	2	1														6
ガスこんろ			1		1								1		1		4
ポット												1			1	1	3
食器・容器			1										1				2
カセットこんろ				1													1
ガストーチ										1							1
電気炊飯器		1															1
なべ		1															1
調理用具									1								1
火災		1						1			1		1	1	3	7	15
ガスこんろ		1						1					1	1	3	3	10
I H調理器										1						2	3
電子レンジ																1	1
オーブントースター																1	1
裂傷			1	1			1				1					2	6
ミキサー類			1	1							1						3
食器・容器							1									2	3
一酸化炭素中毒・窒息					1	1										1	2
オーブントースター						1											1
電子レンジ				1													1
ガスオーブン																1	1
擦過傷																2	2
食器・容器																2	2
打撲			1														1
電子レンジ			1														1
衝突														1			1
カセットこんろ														1			1
被害なし																1	1
ガスこんろ																1	1
総計	3	5	5	2	2	1	1	1	1	1	2	1	3	2	5	14	49

子どもが料理をまねて、製品に触れ発生した事故

子どもが料理のまねをしたり興味を持って台所用品に触れたりすることで事故が発生しています。大人の目が行き届かないところで事故が発生すると、被害が拡大するおそれがあるため、併せて注意喚起します。

① オーブントースターで火災になり死亡

事故発生年月日 2014年2月(大阪府、5歳・女子、死亡)

【事故の内容】

オーブントースター付近から出火して、住宅の一部を焼損し、子ども1名が死亡した。

【事故の原因】

子どもが庫内に可燃物(おもちゃ)を入れてスイッチを入れたため、可燃物が過熱されて発火し、出火したものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「子どもだけで使わせたり、幼児の手が届くところで使わない。やけど・感電・けがをする原因となる」旨、記載されている。

② 電気ポットでやけど

事故発生年月日 2016年8月(千葉県、0歳・男子、重傷)

【事故の内容】

子どもが電気ポットから出たお湯で火傷を負った。

【事故の原因】

子どもが居室の床に置かれていた電気ポットに手を乗せた際、ロック解除キーが押されたためロックが解除され、その後給湯キーが押下されたために湯が吐出し、火傷を負ったものと考えられる。

子どもが製品に触れて発生する事故を防ぐポイント

○乳幼児は、台所用品に触らないような対策をする。

特に3歳以下の乳幼児がいる場合は、台所用品を手の届くところに置かないなどの触れないような対策をしてください。電子レンジが落下してけがを負ったり、電気ポットや電気炊飯器をひっくり返してやけどを負ったり、ガスこんろの点火ボタンを押して出火したりする事故が発生しています。台所のように複数の危険が潜む場所は、柵を設置して立ち入れないようにするのが有効な対策です。

こんろの火災事故を防ぐポイント

最近、自宅で料理する機会が増えたため、不慣れな人が料理し、不注意によるこんろに関連する火災が増えています^{※1}。ガスこんろ、IH 調理器、電気こんろの気を付けるポイントについて、併せて注意喚起します。

(※1) 消防の注意喚起情報等による。

こんろの気を付けるポイント

○周囲に燃えやすいものを置いていませんか。

こんろの上や周囲にタオルや布巾、樹脂製の水切りかごなどの燃えやすいものやスプレー缶などを置かないでください。

○グリル受け皿などの油脂よごれは残っていませんか。

グリルを使用した後は、グリル受け皿や焼き網、庫内側面などにたまった食品かすや油脂を取り除き、こまめに掃除してください。食品かすや油脂などが付着していると、過熱されて発火するおそれがあります。

また、受け皿に水を入れる必要があるグリルは、必ず水を入れて使用してください。水が無いと、受け皿にたまった油が過熱されて発火するおそれがあります。

○使用中は絶対にその場を離れないようにしましょう。

調理油の発火やグリルの火災などは数分間目を離しただけでも発生するため、使用中は絶対にその場から離れないでください。

○ガスこんろに異臭、異音、点火不良、パーナーパーキャップのずれはありませんか。

点火しにくい際に、点火操作を繰り返すとこんろ周辺にガスがたまり、再点火の際にたまったガスに引火して大きな炎が上がる場合があります。火災に至ったり、やけどを負ったりするおそれがあるため、こんろ周囲にたまったガスがなくなるまでしばらく待ってから再点火してください。

○使用中にガスこんろに近づき過ぎていませんか。

調理中は、マフラーなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、炎に接しないよう特に注意してください。また、火が接しても着火しにくい防災品のエプロンやアームカバーを使うことで、予防できます。こんろの周りに近づくと火を弱める安全装置付きガスこんろもあります。

○鍋底が反っていたり、よごれている鍋を IH 調理器で使用していませんか。

火を使わない IH 調理器でも「天ぷら油火災」が起こっています。揚げ物をするときは油の量に注意し、底が平らな鍋を使いましょう。油の量が少ない場合、鍋底に反りがある場合や汚れ防止マットを敷いている場合などは、温度センサーが正確に働きません。

○IH 調理器で揚げ物をするときは、揚げ物キーを使用していますか。

天ぷら油は油温が 370° C 以上になると火種がなくても発火します。取扱説明書に従って調理器に対応する鍋で、揚げ物キー（モード）を使用しましょう。

○お使いの製品がリコール対象製品か確認する。

リコール対象製品による火災事故が発生しています。リコール対象製品をお持ちの場合は、すぐに使用を中止し、製造事業者に連絡してください。特に、単身者用のワンルームマンション等に設置されている電気こんろの中には、繰り返しリコールされているにもかかわらず未改修品での事故が発生しています。今一度確認し、リコール対象製品の場合は、集合住宅の管理者に連絡してください。

事業者、消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しています。お持ちの製品がリコール製品かどうかを確認することが可能です。

製品が発売されてから数年後にリコールを実施したという事例や、型式などに限定せず、長期間使用していることを注意喚起している製品などもあります。

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

また、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/index.php>



死亡・重傷事故の詳細

以下に参考情報として、台所用品における死亡・重傷事故の概要を示します。

■死亡事故

no	発生日	品名	発生場所	被害者	事故内容
1	2011/11	電気ポット	秋田県	0～4 歳・男子 死亡	旅館において、子どもが、テーブルの上に置かれていた当該製品に触れたところ、当該製品が倒れ蓋が開き、熱湯がかかって火傷を負い、翌々日に死亡した。 当該製品に変形、破損等の異常が認められないことから、幼児が当該製品の蓋を開き、転倒させたことによりお湯がかかり、火傷を負ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。
2	2013/5	ガスこんろ	岩手県	0～4 歳・男子 死亡	建物を全焼する火災が発生し、1 名が死亡した。 当該製品の右側こんろ上に置いていたフライパンの油が過熱されて出火し、火災に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。
3	2014/2	オーブントースター	大阪府	5～9 歳・女子 死亡	オーブントースター付近から出火して、住宅の一部を焼損し、幼児 1 名が死亡した。 幼児が庫内に可燃物を入れて通電したため、可燃物が過熱されて発火し、出火したものと推定される。なお、取扱説明書には、「子どもだけで使わせたり、幼児の手が届くところで使わない。やけど・感電・けがをする原因となる」旨、記載されている。
4	2017/4	電子レンジ	埼玉県	0～4 歳・女子 死亡	当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、1 名が死亡、2 名が重傷を負った。 事故発生時の詳細な使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 なお、当該製品のターンテーブル上にはボタン電池と金属板、金属製ボールチェーンが残存していた。

■重傷事故

no	発生日	品名	発生場所	被害者	事故内容
1	2010/5	電気ポット	静岡県	0～4歳・性別不明 重傷	<p>当該製品が倒れた際に、ふたが開き、中の熱湯がこぼれ、1名が火傷を負った。</p> <p>当該製品は、転倒時にふたは外れない構造であることから、ふたの閉め方が不完全であったため、転倒した際にふたが外れたものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。なお、本体及び取扱説明書には、「乳幼児の届く所で使わない。」、「ふたは確実に閉める。」旨、記載されている。</p>
2	2010/7	電子レンジ	千葉県	0～4歳・性別不明 重傷	<p>当該製品で調理で使用する際、扉を開いたままにしていたところ、幼児が扉を掴み、当該製品が落下し、負傷した。当該製品の扉（縦開き）が開いた状態であったこと、その高さが幼児の手の届く高さであったことから、幼児が扉を掴み、当該製品が落下したものと考えられる。</p>
3	2010/8	カセットこんろ	岐阜県	5～9歳・男子 重傷	<p>キャンプ場にてこんろが2口ある当該製品で調理中、当該製品の2個あるうちの1個のボンベが空になったため、もう一方のこんろの炎を消さずにボンベを交換したところ、こんろとボンベの接続部から漏れたガスに引火したと思われる火災が発生し、3名が重傷、2名が軽傷の火傷を負った。</p> <p>事故原因は、長期（18年）間使用された当該製品の器具栓内のリングパッキンが、ガスボンベねじ部の締付けの繰り返しなどで劣化損傷してガスの気密性が無くなっており、気密性を補完するガスボンベのリングパッキンも当該製品への締付け過ぎでねじれてずれてしまったため、隙間が生じて当該製品とガスボンベの接続部からガス漏れが発生してバーナーの火が引火し、引火した炎の熱によりガスボンベ内部の樹脂製バルブが溶解・脱落してボンベのノズルでさらに隙間が生じ、ガスボンベを当該製品から取り外したときにガスボンベのノズルからガスが噴出して炎が噴き出し、周辺に延焼して火災に至ったものと考えられる。</p>

4	2013/11	食器・容器 (マグカップ)	東京都	10～14歳・女子 重傷	<p>当該製品に飲料物を入れて電子レンジで温めた後、飲もうとしたところ、当該製品が破損し、火傷を負った。</p> <p>当該製品は、元来の比較的高い熱膨張率に加えて、1回以上の再焼成による焼け締まりが生じて陶器素地が脆くなり、熱湯を注いだ際の熱膨張による応力に耐えきれなくなって底部が破断したものと推定される。</p>
5	2015/7	電気炊飯器	東京都	0～4歳・男子 重傷	<p>当該製品で炊飯中、幼児（1歳）が当該製品を抱えた状態で転倒し、火傷を負った。</p> <p>当該製品は、使用者が幼児の手の届くところに置いて使用していたため、当該製品の外蓋ロック機構が作動する前（急速加熱工程前）に外蓋を開いて、炊飯中の当該製品を幼児が引きずり落下させたため、内なべから外に出た内容物がかかったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「子供だけで使わせたり幼児の手の届くところで使わない。圧力炊飯中は絶対に外蓋を開けたり移動させない。やけどをする恐れがある。」旨、記載されている。</p>
6	2015/8	ハンドブレンダー	栃木県	10～14歳・男子 重傷	<p>店舗で子供が当該製品を操作したところ、指を負傷した。</p> <p>当該製品は、簡単に動作可能な状態で不特定多数の者が自由に使用できる状態にあったため、子供が一人で当該製品を操作した際、回転しているブレンダーシャフトの刃で左指を負傷したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。なお、取扱説明書には「子供など取り扱いに不慣れな方だけで使わせたり、乳幼児の手の届くところで使わない。」旨、警告表示されている。</p>
7	2016/6	スロージューサー	福岡県	0～4歳・男子 重傷	<p>当該製品で調理中、幼児（2歳）が右手を負傷した。</p> <p>幼児が電源が入ったままの当該製品の食材投入口に誤って右手を入れてしまったため、回転するスクリュウに巻き込まれて負傷したものと推定される。なお、本体には、「子供が手を入れないよう十分に注意する。」「食材投入口には押し棒のみを使用する。」旨、表示され、取扱説明書には、「子供の手が届くところに、電源</p>

					を入れたまま放置しない。」「食材投入口に材料を入れる際は、押し棒以外の指等を絶対に入れない。」旨、記載されている。
8	2016/8	電気ポット	千葉県	0~4歳・性別不明 重傷	乳児が当該製品から出たお湯で火傷を負った。 事故発生時の詳細な状況は不明であるが、給湯ロック機構を含め、当該製品に異常が認められなかったことから、乳児が当該製品に手を乗せた際、ロック解除キーを押下後、給湯キーが押下されたために湯が吐出し、火傷を負ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。